

## 第 37 回レーザセンシングシンポジウム開催趣意書

第 37 回レーザセンシングシンポジウム

実行委員長 千葉大学 椎名達雄

レーザセンシングシンポジウムは、1972 年に開催された第 1 回レーザレーダシンポジウムから始まり、第 12 回からは現在の名称に変更され、今日に至っています。本シンポジウムは国内最大のレーザレーダ(ライダー)に関する学術会議であり、ライダーを代表とする様々なレーザセンシングに関わる全国の研究者や技術者の発表と情報交換の場として機能しています。

レーザ・レーダ研究会は、第 1 回レーザレーダシンポジウム開始の際に、日本のライダー研究の先駆者である稲場文男東北大学教授を会長として組織され、シンポジウムの開催、レーザセンシング技術の向上と普及に関する活動をすすめてきました。また、レーザレーダ研究会は、日本で開催された過去三回(第 6、17、23 回)の国際レーザレーダ会議(ILRC)現地実行委員会を構成するなど、国際的な活動にも大いに貢献してきました。

なおレーザ・レーダ研究会は、平成 30 年 4 月 1 日をもちまして「レーザセンシング学会」と改称し、新たに学会としての組織を整えました。これを機に、日本における今後の光センシング分野の更なる発展を目指して関係者一同鋭意邁進していく所存ですので、何卒皆様からより一層のご助力を賜りますようお願い申し上げます。

本シンポジウムは、レーザセンシングの装置開発、計測・計装技術、データ解析、運用技術など、様々な技術分野の専門家に加え、大気・海洋・気象・環境科学関係の研究者の、発表および情報交換を行う場として、重要な役割を担っています。今回のシンポジウムでも、レーザを中心とした光センシングに関する幅広い分野の話題を取り上げております。

関係各位のご参加を心よりお待ちしております。